



病気の解説冊子

Rhythm[®]
PHARMACEUTICALS



こう てん せい し しょう か ぶ せい ひ まん

後天性視床下部性肥満 (aHO)を正しく理解 するために

監修

国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
小児科 部長

磯島 豪 先生

目次

はじめに	3
こうてんせいししょうかぶせいひまん 後天性視床下部性肥満 (aHO) とは	4
食欲やエネルギー消費を調節できなくなる 仕組み	6
一般的な肥満との違い	8
ほかの病気のリスク	9
過食やエネルギー消費量の減少による 体重増加以外の症状	10
aHOの診断に参考となる情報	11

はじめに

この冊子では、こうてんせいししょうかぶせいひまん後天性視床下部性肥満(aHO※)の原因や症状などについて解説しています。

※Acquired Hypothalamic Obesity といいます。

aHOは、視床下部の一部分が機能しなくなること、過食が起こったりエネルギー消費量が少なくなったりするために、急激かつ持続的な体重増加が起こる病気です。

また、視床下部がダメージを受けていることで、さまざまな症状を伴っていることもあり、さらに肥満による病気のリスクが高くなります。

aHOについて理解を深めるために、この冊子をご活用ください。
なお、分からないことや不安なことがあれば、医師・看護師などの医療スタッフにご相談ください。



後天性視床下部性肥満 (aHO) とは

脳の一部である「視床下部」には、空腹感や満腹感、エネルギー消費をコントロールする司令塔となる領域が存在します。

aHOは、視床下部の障害や、視床下部の構造的異常によってこのバランスが崩れ、過食が起こったりエネルギー消費量が少なくなったりするために、急激かつ持続的な体重増加が起こる病気です。

● aHOの症状



過食が起こることがあります

aHOによる過食では、典型的には、“常に食べものを探してしまう”などといった強い空腹感や食べたいという欲求を抑えられず、食欲をコントロールできなくなる症状がみられます

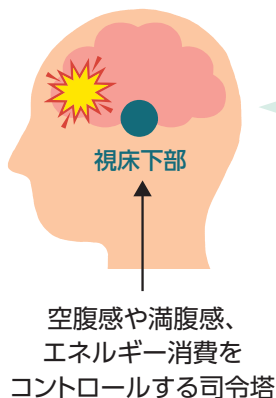


エネルギーの消費量が減ります

急激かつ持続的な体重増加が起こります

● aHOの原因

視床下部は、以下に挙げるようなさまざまな原因によって障害が生じ、機能しなくなることがあります。



- 脳に腫瘍ができたとき
- 脳腫瘍を治療するために手術や放射線治療を受けたとき
- 視床下部への感染や炎症が起こったとき
- 脳卒中が起こったとき
- 重度の外傷を負ったとき
- 脳の構造に異常があるとき

食欲やエネルギー消費を調節できなく

視床下部はどのように食欲やエネルギー消費を調節しているのでしょうか？

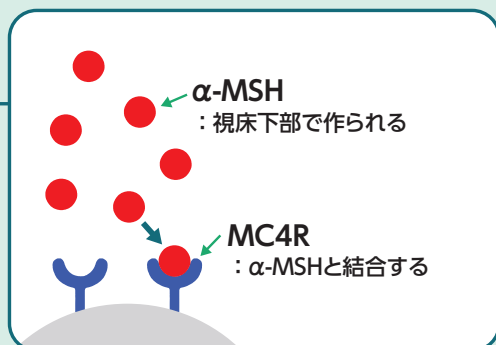
食欲やエネルギー消費の調節において、ホルモンの一種である“ α -MSH”^{アルファ・エムエスエイチ}や、その受容体である“MC4R”^{エムシーフォーアール}などが重要です(満腹時)。

α -MSHは視床下部で作られる小さな物質です。

この α -MSHが視床下部や脳幹^{のうかん}、脊髄^{せきずい}にあるMC4Rに結合すると、食欲を低下させ、エネルギー消費を増大させる指令が送られ、体重調節に関わります。



健康な場合(満腹時)



食欲を低下させる・エネルギー消費を増大させる

なる仕組み

なぜaHOでは、食欲やエネルギー消費が調節できなくなるのでしょうか？

aHOは視床下部の働きが障害され、 α -MSHをうまく作れず、量が少なくなっている状態です。

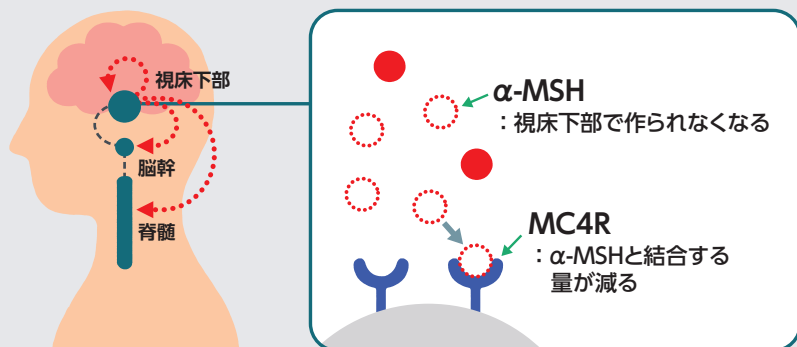
MC4Rに結合する α -MSHの量も少なくなるため、食欲を低下させエネルギー消費を増大させる指令が弱まります。

その結果、過食(病的に食欲を抑えられなくなって食べ過ぎる)が起こったり、エネルギー消費量(体が使うエネルギーの量)が少なくなったりします。

過食では、典型的には、“常に食べものを探してしまう”などといった強い空腹感や食べたいという欲求を抑えられず、食欲をコントロールできなくなる症状がみられます。

このような視床下部の不可逆的な障害により、急激かつ持続的に体重が増えます。

aHOの場合



過食が起こる、エネルギー消費量が少なくなる

一般的な肥満との違い

aHOでは、以下のように、一般的な肥満と違い、空腹の感じ方が強く、体重の増え方も特徴的です。

空腹の感じ方

- 食事の後も空腹を感じる
- 食べもののことを常に考え、いつもお腹が空いている
- いくら食べても満腹感を得られない
- 寝ているときに空腹感で起きる



aHOによる体重増加の特徴

- 急に体重が増え始める
- 体重が増えるペースが速い
- 体重が増え続ける
- 食事制限をしても、体重が増え続ける



ほかの病気のリスク

過食やエネルギー消費量の減少によって肥満になることで、aHO以外にも、以下の病気のリスクが高くなります。

体重や血圧などの体の変化を記録するようにしましょう。

高血圧

脂質異常症

糖尿病

心不全

など



診断後の早い時期から治療を受けることが、これからの健康や毎日の生活を守ることにつながる可能性があります。

aHOによる体重増加の治療として、運動や食事の調節、薬による治療があります。

治療方法については主治医と相談して決めていきましょう。



日々の生活の中で、体重や食欲をコントロールできないことに苛立ちや徒労感を覚えたり、肥満による病気のリスクを不安に感じたりすると思います。

気になることや心配なことは、医師や看護師などの医療スタッフに相談し、1人で抱え込まないようにしましょう。

過食やエネルギー消費量の減少による 体重増加以外の症状

視床下部がダメージを受けることによって、ほかにも以下のような症状（視床下部症候群）が現れることがあります。

各症状について、専門の医療スタッフによる治療を受けることが大切です。

身体面で現れる症状

- 疲れやすい
- 日中に眠くなる
- 夜中に頻繁に目が覚める
- 以前よりも寒さや暑さを感じる
- 平熱が高い
- 発熱が長引く
- 視力が低下する
- 水を多く飲む、尿の量が増える



精神面で現れる症状

- 気分が落ち込む
- いらいらする、怒りっぽくなる
- ひとつの話題にこだわる
- 不要なものを集める

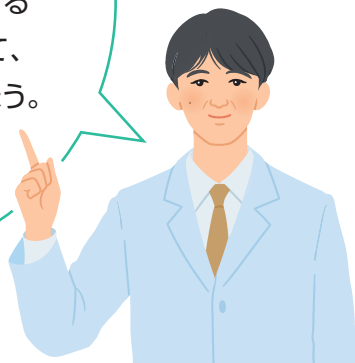


aHOの診断に参考となる情報

- ☐ 脳に腫瘍ができたり、事故などで頭部への強い衝撃があったりしたことがありますか？
- ☐ 脳の手術や頭部への強い衝撃があった後に体重が急に増え始めましたか？
- ☐ 食事を制限しても、体重が増え続けていますか？
もしくは、体重のコントロールに苦労されていますか？
- ☐ 常に空腹感があり、食欲を抑えることが難しいですか？
- ☐ 空腹感から食べものを探すことがよくありますか？

※上記の内容は診断のための参考情報であり、診断は医師によって行われます。

上記の内容は、aHOの診断を行う上で参考にする情報です。
より正確にaHOの診断をするために、受診前に確認をして、
医師に伝えるようにしましょう。



Webサイトのご紹介

- aHOに関する情報をご提供しています。
- 離れて暮らすご家族の方などにもリンクを共有することで、aHOについて、知っていただくことができます。

▶ aHO疾患解説サイト

aHOのことをよく知るためのサイトです。

aHOとは？ なぜ病気になるの？ aHOの肥満以外の影響とは？
といった疑問に答えます。



医療機関名